

**総務常任委員会
視察研修報告**

視察日

平成24年11月12日～13日

視察先

・群馬県太田市役所

・長野県下水内郡栄村役場

視察目的

・メガソーラー事業について
・田舎暮らし体験住宅と長野県北部地震被害状況について

視察内容

太田市は、平成17年に旧太田市と3つの町（尾島町・新田町・藪塚本町）が合併して誕生、人口22万人を有しています。

太田市は表1にありますように、合併前の平成13年度から、環境対策の一環として、太陽光発電システムを導入を奨励し、公共施設19箇所と一般家庭2540件に設置をしてみました。

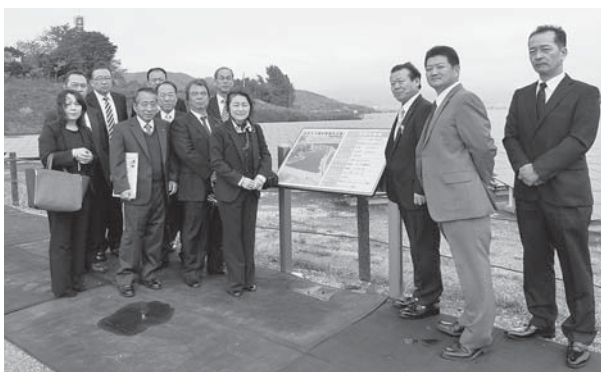
表1 太陽光発電システム導入奨励金【H13年～H22年4月末実績】

	設置件数	合計出力	助成金額	CO ₂ 削減量
H13～H22年度合計	1,987件	7,389.16kw	(千円) 379,413	2,837.43 t-CO ₂
PalTown城西の杜	553件	2,129.0kw	NEDO補助	817.54 t-CO ₂
計	2,540件	9,518.16kw	—	3,654.97 t-CO ₂

※奨励金は、平成22年度で終了しています。
※排出係数0.384を使用。
※NEDOとは、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の略称。

平成23年9月には、メガソーラー事業を市で行うことを議会で決定し、平成24年7月の再生可能エネルギー法施行に合わせ、平成24年7月1日にメガソーラー事業を即時立ち上げました。

CO₂排出削減量年間611トン掲げ、エコのまちづくりに取り組み、その結果発電量の予測は、当初計画を大きく上回り、4カ月で年間予測発電量の半分を超えていました。環境保護へ取り組んだ事業が、市の財政の手助けとなる相乗効果を目の当たりにしました。



メガソーラー「おた太陽光発電所」を前に

栄村は、人口2232人の村で、新潟県との県境に位置し、平成23年の東日本大震災の翌日、震度6強の

長野県北部地震で大きな被害が発生し、村民8割が避難所に避難、現在も130人が仮設住宅での避難生活を強いられています。復興に向けて、村営住宅の整備や田直し、村道直し事業が進められていました。この村営住宅は、平成24年度内に31戸の入居を目指して進めていましたが、田舎暮らしの体験住宅は、震災復興優先で成果はないように感じられました。



栄村役場での意見交換会